

令和元年度 第2回酒蔵ツーリズム研修
～東京の酒を知る～
報告書



はじめに

令和元年度の観光地域づくり支援基金事業では、昨年度に引き続き、「観光人材の育成事業」の一環として、「テーマ別モデル地域選定、研修、ワークショップの開催」を設定した。

全国各地域には、豊富で多様な観光資源が多数存在しており、各地域において、これらの観光資源を活用した取り組みがなされている。こうした地域資源を発掘し、磨き上げるとともに、国内外から選ばれる国際競争力の高い、魅力ある観光地域づくりを促進するために、地域のブランディングが重要であり、その実現のためには、地域の観光資源の発掘、開発、マーケティングが必要であると考えられるため、当協会では平成 30 年度より、テーマ別観光による地方誘客を目指し、「酒蔵ツーリズム」の推進事業に取り組んでいる。

今年度は、酒蔵ツーリズムの推進に取り組むにあたり、各地の事例や酒の特色などを知り、情報交換・検討を行う場として、「酒蔵ツーリズム研修」を開催することとした。

第 2 回目の開催となる今回は、北区の赤煉瓦酒造工場(旧醸造試験所第一工場)で令和 2 年 2 月 8・9 日に開催したイベント『晴れの酒、花の宴。』に合わせたテーマとして、「東京の酒」について学び、理解を深める機会とした。行政・民間の観光関係者、酒造関係者の方をはじめ、酒蔵ツーリズムに興味関心を持つ通訳案内士や一般の方にも参加いただき、多摩地域における酒蔵ツーリズムの事例や赤煉瓦酒造工場と北区の醸造業について紹介した。

1. 実施概要

開催日時: 令和2年2月9日(日) 13:00~15:30(12:30~受付)

開催場所: 北区飛鳥山博物館 東京都北区王子 1-1-3

主催: 公益社団法人 日本観光振興協会

対象者: 各地域の行政・観光協会・DMO 関係者、民間観光事業者、通訳案内士、一般の方 等

参加費: 無料

募集・告知: 日本観光振興協会 ホームページ・会員向けメルマガ

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 ホームページ・公式 SNS(Facebook, Twitter) にて告知

募集チラシ(参考資料1)、観光業界メディアへ情報配信

北区飛鳥山博物館にて来館者へ告知

実施テーマ: 酒蔵ツーリズム研修「東京の酒を知る」

【研修会場】 北区飛鳥山博物館 会議室



【研修プログラム】

12:30	開場
13:00～13:05	「開会挨拶」 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 会長 細野 助博
13:05～13:10	「来賓挨拶」 国税庁 課税部 酒税課 課長 杉山 真 氏
13:10～13:30	「酒蔵ツーリズム概要説明」 公益社団法人 日本観光振興協会 副理事長 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長 久保田 穰
13:30～14:00	「多摩地域における酒蔵ツーリズム 清酒『澤乃井』醸造元 小澤酒造株式会社」 小澤酒造株式会社 代表取締役社長 小澤 幹夫 氏
14:00～14:30	「赤煉瓦酒造工場と北区の醸造業」 北区飛鳥山博物館 学芸員 山口 隆太郎 氏
14:30～15:25	パネルディスカッション(40分)・質疑応答(15分)
15:25～15:30	「閉会挨拶」 東北・夢の桜街道推進協議会 事務局長 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長 宮坂 不二生

2. 参加者

<研修参加者>

観光関連団体・企業、酒造関連団体・企業、メディア、通訳案内士、学生、一般の方など 30名

<来賓>

国税庁 1名

<主催者関係>

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 2名、日本観光振興協会 5名

3. 研修プログラム概要

(1)「開会挨拶」

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 会長 細野 助博

(2)「来賓挨拶」

国税庁 課税部 酒税課 課長 杉山 真 氏



細野会長 挨拶



杉山課長 挨拶

(3)酒蔵ツーリズム概要説明

公益社団法人日本観光振興協会 副理事長

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長 久保田 穰

公益社団法人日本観光振興協会から、テーマ別観光による地方誘客事業の一環として平成 30 年度より取り組んでいる「酒蔵ツーリズム」の概要について説明を行った。



久保田副理事長 発表

(4)「多摩地域における酒蔵ツーリズム 清酒『澤乃井』醸造元 小澤酒造株式会社」

小澤酒造株式会社 代表取締役社長 小澤 幹夫 氏

小澤酒造株式会社における酒蔵ツーリズムの取組みについて、小澤社長より講演。



小澤酒造株式会社 小澤社長 講演

(5)「赤煉瓦酒造工場と北区の醸造業」

北区飛鳥山博物館 学芸員 山口 隆太郎 氏

赤煉瓦酒造工場と北区の醸造業の歴史や概要について、山口氏より講演。



飛鳥山博物館 山口氏 講演

(6) パネルディスカッション

細野会長をコーディネーターとして、小澤社長、山口氏、久保田副理事長と「お酒×地域文化×ツーリズムの成功方程式」と題したパネルディスカッションを実施。



パネルディスカッション

(7) 「閉会挨拶」

東北・夢の桜街道推進協議会 事務局長

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長

宮坂 不二生



宮坂副会長 挨拶

4. メディア露出

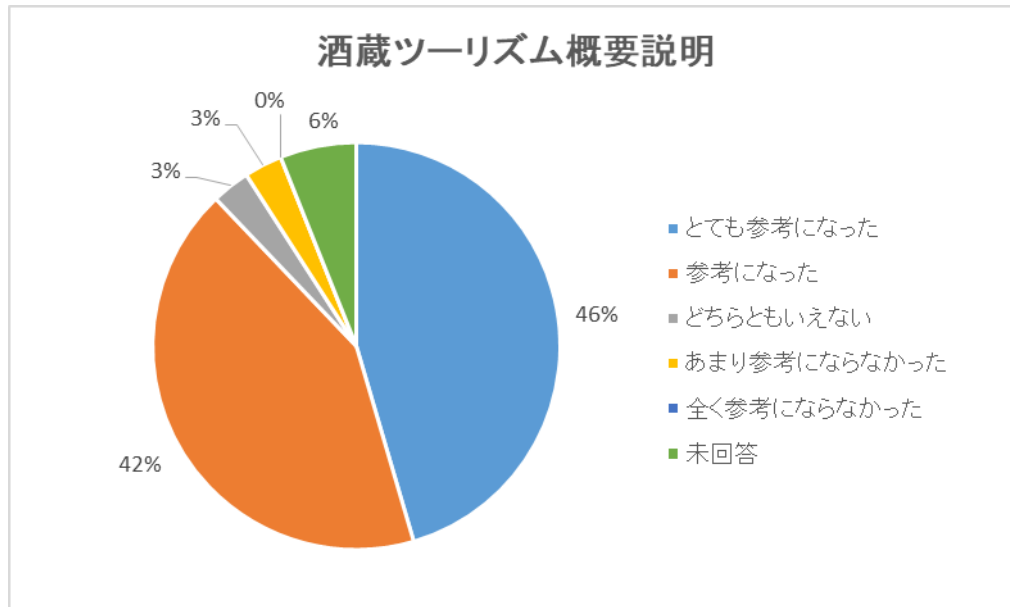
交通新聞 2020年2月20日に記事掲載。詳細は「参考資料6」参照。

5. 参加者アンケート

参加者に対するアンケートを実施。

各質問項目に関する回答は下記の通り。

(1)「酒蔵ツーリズム概要説明」(日本酒蔵ツーリズム推進協議会)についての評価



とても参考になった

- ・知っていたが、こうした案内は大切。
- ・全体像と流れが分かった。
- ・酒蔵ツーリズムの概要や目指しているところが分かり、大変参考になりました。
- ・具体的なお話をお伺いすることができた。
- ・楽しそうに感じました。
- ・地域の“ストーリー”を伝えることの重要性を改めて感じました。また“高い、より良いお酒”を知ってもらい、試してもらう仕組みが必要と感じました。
- ・輸出動向等、統計がよくわかった。
- ・酒蔵からインバウンドへの動向を確認できた。会社に持ち帰り参考にしたい。
- ・通年で酒蔵ツアー等を実施している所があると分かったので、調べて日本酒が好きな人達に紹介したい。
- ・概要について理解が深まった。
- ・全体を俯瞰したわかり易い話でした。

参考になった

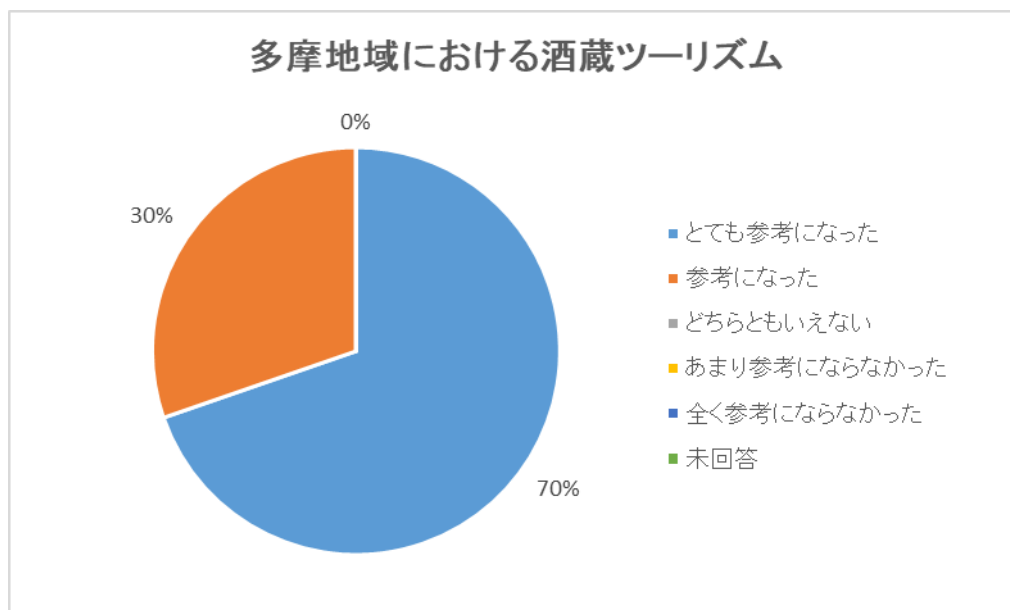
- ・ストーリーで語るというのはわかりやすかったです。
- ・各地のツーリズムの取り組みが参考になりました。諏訪をご紹介頂きありがとうございました。励みにして参ります。

- ・酒蔵×観光のデータを基本とした説明と事例紹介が参考になりました。
- ・外国語版の酒蔵ガイドは参考にして活用していきたい。より分かりやすく日本酒の魅力を国内外問わず来て頂いたお客様に提供していきたい。地域との連携も重要、等々改めて再認識できた。
- ・データが豊富であった。ワインツーリズムの事についてはもう少し詳しく話して欲しかった。

どちらともいえない

- ・資料の確認だった。

(2)「多摩地域における酒蔵ツーリズム」(小澤酒造 小澤幹夫氏)についての評価



とても参考になった

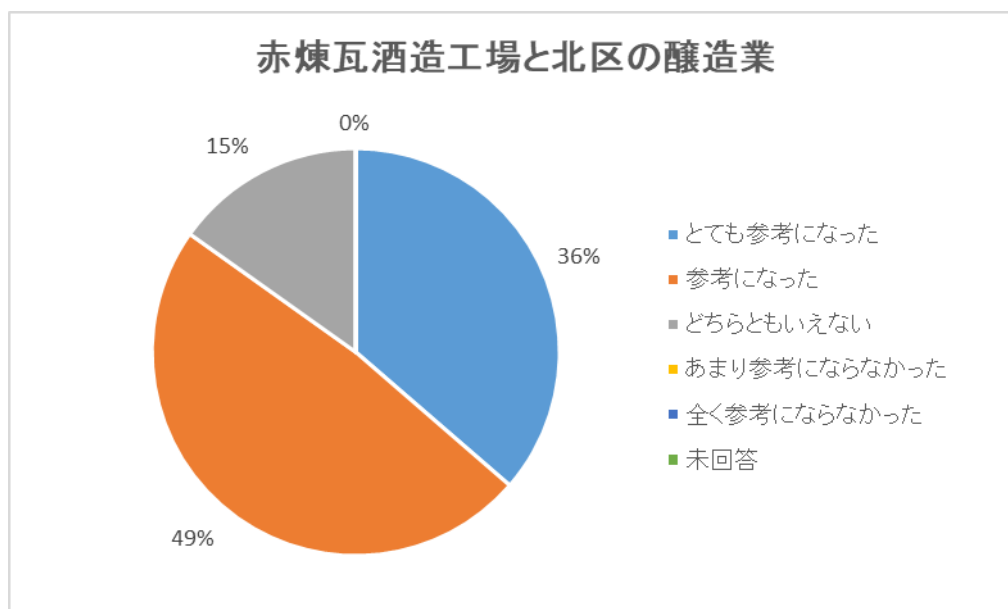
- ・50年前からの実績を知った。
- ・具体的な状況が分かった。
- ・酒蔵見学というのは最近の話かと思っていましたのでびっくりしました。日本に在住している外国人という視点は面白かったです。
- ・地域を活かしたツーリズムを行っており、素晴らしいと思いました。また、SNSを用いた宣伝をされており、参考になりました。
- ・酒蔵の方から実際に取り組みされているところ、苦労されている点、インバウンドのデータといった貴重なお話が伺え、良かったです。
- ・アンケート結果等、詳しいご説明を頂いた。早い時代からのツーリズムへの取り組み、外国人向けの蔵見学の増加の話が参考になりました。
- ・日々の取り組み事例を盛り込みながらの説明が良かった。
- ・水がベースという考え方、なるほどと思いました。
- ・酒蔵での実体験、取り組みが参考になりました。酒蔵見学の外国人の楽しみ方、詳しいコンテンツなど、また教えて欲しいです。

- ・英語ツアーと外国人の割合、人気の話が参考になった。
- ・弊社の新しい事業に絶対に必要となる企業であり、コンテンツと考えています。積極的に連絡を取り、互いのビジネスに繋げていきたい。
- ・酒蔵の取り組みが参考になった。
- ・酒蔵観光の取り組みが明確で歴史がある。具体的なデータがあり、外国人の比率も分かった。
- ・小澤酒造様のお酒を飲みたくなる説明でした。次回はお酒を飲みながら話を聞いてみたいです。
- ・日本酒に興味がある方に酒蔵ツアーを紹介したいと思った。
- ・東京の酒蔵として頑張っているから。
- ・インバウンドへの具体的な取り組みやアンケート結果も聞けて良かった。
- ・事例紹介は具体的なイメージにつながり有効。

参考になった

- ・小澤酒造様の歴史・酒造りに関して、深く知れた。また、現在の取り組み（見学ツアー、インバウンドの英語ツアー、インスタグラムなど）について参考になりました。
- ・いち早く見学用施設を開設したことは素晴らしいと感じた。きき酒処の写真が参考になった。英語による酒蔵ツアーに興味深い。一度見学に伺いたいと思いました。
- ・東京ならではの様子が分かった。

(3)「赤煉瓦酒造工場と北区の醸造業」(飛鳥山博物館 山口隆太郎氏)についての評価



とても参考になった

- ・近代醸造について学べた。
- ・技術発展の流れが勉強できた。
- ・酒造工場の歴史などが詳しく分かった。また、北区の醸造業の変遷がよく分かりました。
- ・研究所があり、日本酒の技術向上と、それを広めることに大変貢献したと知りました。税金がからんで

いるのも面白かったです。

- ・帰りに寄ってみたいと思います。壁の中空構造、山廃技術の確立、速醸酏、講習会→協会への発展、品評会・鑑評会の話が参考になりました。
- ・歴史的な着眼点からのお話は興味深かった。
- ・国税のトップを酒税が担っていたとはとても興味深く拝聴できました。
- ・歴史の流れで日本酒の醸造に取り組む人々の活動が興味深かったです。
- ・日本の醸造研究の歴史が学べた。
- ・貴重な文化財であり、もっと活用して欲しい。
- ・中々聞くことのできない話で興味深かった。

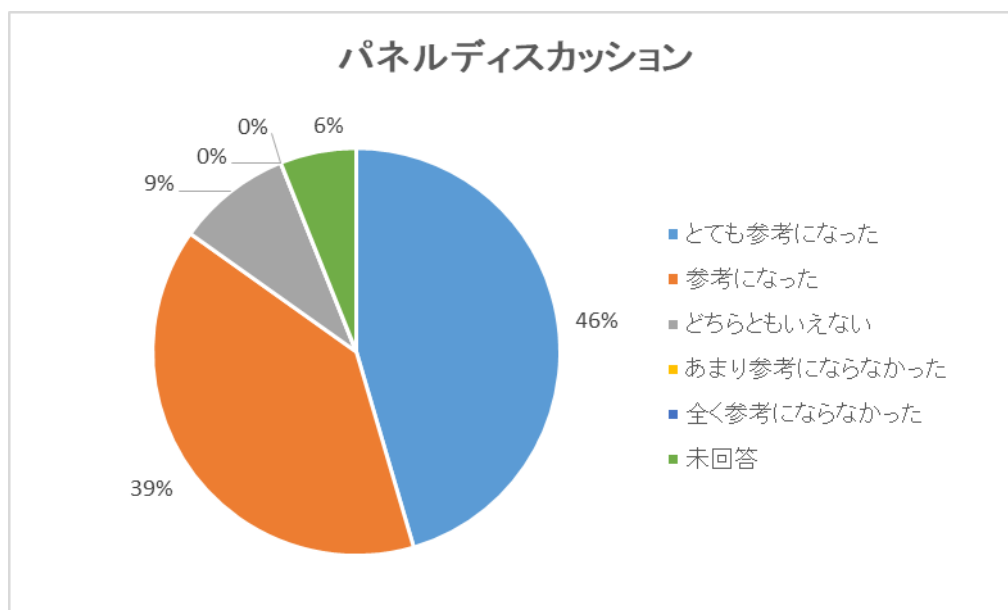
参考になった

- ・私は板橋在住なのですが、身近にこんな施設があるのは初めて知りました。
- ・お酒の勉強になりました。
- ・明治 42 年に大蔵省醸造試験場の鹿又親かのまたちかし技師が弊社に醸造の実態調査に来られたことが大きく会社を飛躍させるきっかけだったことから大変興味深く話を伺えた。午前中に Miss Sake さんから試飲酒を頂き、楽しむことができました。
- ・とても貴重な施設だと分かった。通常の博物館のように一般者向けオープンや体験できる、見学できることがあったら良いなと思った。
- ・小山酒造の廃業は北区民としてとても寂しい気持ち。飲食店でも人気があるのに人手不足で閉店したり、23 区内は色々難しい。
- ・北区としての酒蔵ツーリズムの取り組み、他地域との連携の予定等が聞けると更に良かった。

どちらともいえない

- ・醸造試験場について詳しくご説明いただき理解できました。ツーリズムとの関係性についてもう少し聞きたかった。
- ・23 区唯一という酒蔵は印象的でしたがツーリズムとの接点となる話が少なかった。

(4)「パネルディスカッション」についての評価



とても参考になった

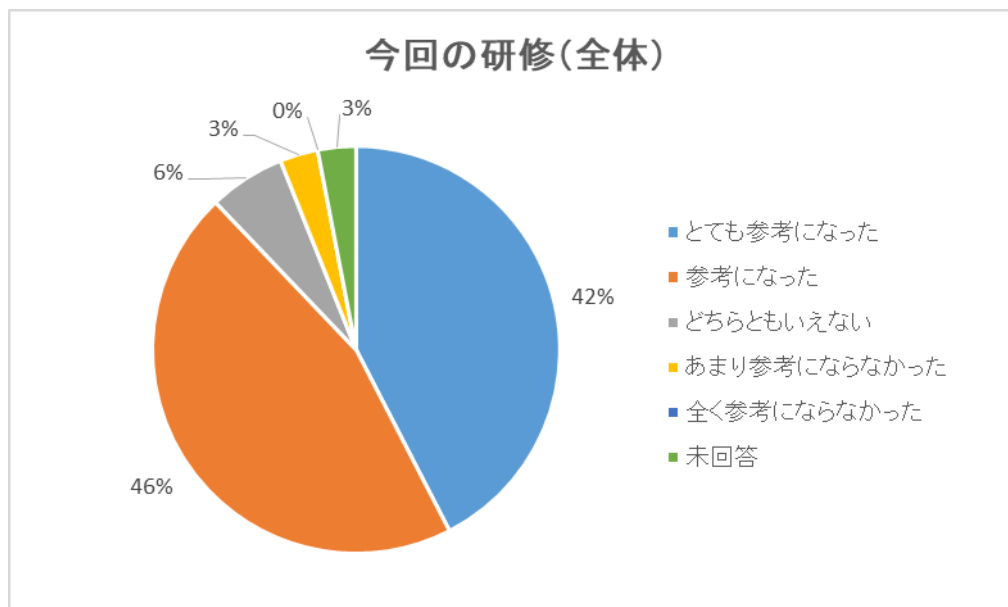
- ・皆様のご意見、お考えが聞けました。
- ・英語見学のキャンセル、ガストロノミーツーリズム、通訳案内士の話が参考になりました。
- ・テーマが絞られた点が良かった。
- ・それぞれのお立場がわかりやすかったです。
久保田様のワインとの違いの説明が素晴らしかったです！
- ・講師の先生方の様々な視点からのお話、大変興味深かったです。
- ・酒蔵業者の抱えている課題が見えた。
- ・ディスカッションの中で久保田氏の話の内容が濃く、とても良かった。
- ・ツアーのドタキャン対策は有償にして利き酒のレベルを上げる。時間を長くする。お土産を付ける(お酒、酒器、トートバッグ等)のも良いのでは？1社でアンテナショップは難しいので例えばJR「のもの」の様な所でオリンピック期間にでも東京食材フェアをうってもらうのは？
- ・講演時より更に具体的な話を聞け、会場との双方向の意見交換もあり良かった。
- ・問題意識のポイントが参考になった。

参考になった

- ・活発な議論だったと思います。
- ・新しい事業を作ってビジネスとして成立させたいと非常に感じる時間でした。
- ・内容が深掘りできました。
- ・“お酒×地域文化×ツーリズム”を肝に命じたい。“体験型”がキーワードになると感じる。酒蔵単独ではできない。地域・旅行会社・イベント施設との協業も必要だと感じる。
- ・小沢様の意見・課題が大変ためになりました。
- ・色々なお話を伺って参考になった。酒蔵“ツーリズム”なので見学は有償で行ったら良いと思う。

- ・パネルディスカッションなのですが、会話というよりプレゼンが多かったイメージですが、小澤様の会場に対する質問は良かったです。

(5) 今回の研修(全体)についての評価



とても参考になった

- ・酒蔵ツーリズムには興味はありましたが、無知ですので、大変勉強になりました。
- ・様々なお立場からのお話を伺えた。
- ・諏訪でも酒蔵ツーリズムを取り組んでおり参考になった。
- ・東京の酒蔵について学べた。
- ・各業界の方が、他業種の考えをあまり知らないことがよく分かりました。
- ・新しいツーリズムの形として更に伸びて欲しい。
- ・澤乃井の社長からの具体的な話が聞けてとても良かったです。

参考になった

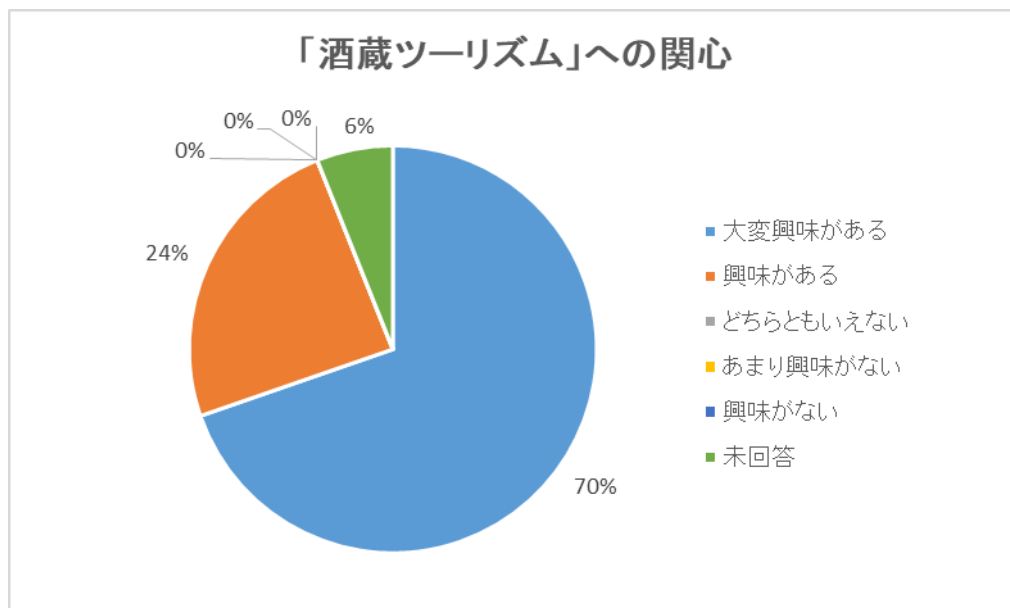
- ・特に、東京の一極集中をなくしていくために、インバウンドツーリズムを推進していくために、色々と参考になりました。
- ・訪日の方は新幹線が安く乗れるので、東京に泊まって日帰りで旅行する人も多いので、都内観光は電車が混むので難しいと思っている。
- ・もう少し強いメッセージ性があると学びになるポイントが明確になると思いました。

どちらともいえない

- ・インバウンドを目的としているのか、国内の観光の酒蔵ツーリズムなのか、それによって考え方が違うと思うけれど、そこは明確ではない気がした。インバウンドだとしても国や地域によって興味も違う。ターゲットの絞り込みがなかったと思う。

(6)「酒蔵ツーリズム」に関するご意向

①「酒蔵ツーリズム」への関心



②「酒蔵ツーリズム」に対するご意見・ご要望

大変興味がある

- ・昨年から一般向け見学(有料)を始めました。客数のUPと楽しさUPを図っていきます。食事会場(施設)がありませんので悩みどころです。
- ・各地域の取り組みを共有して欲しい。
- ・通年型、価値の向上が必要。
- ・二次交通、外国語対応、ドライバー & 通訳⇒マーケットあり？
- ・“日本酒”は日本にしかない魅力あるコンテンツだと思いますので、オールジャパンで世界に発信していく必要があると思います。その時に正しく発信すること、用語の統一などに興味があります。
- ・ツーリズム推進協議会が目指すところをもう少し具体的に知ることができればと思います。今回の参加者の属性をできれば公開して頂きたいと思います。
- ・醸造所の問題を協力し、解決したいと思った。
山奥の立場(交通手段の提供)、重い、割れるなどが課題。
- ・小澤酒造様以外の蔵元様についてもお話が聞いてみたいです。
- ・拝聴した内容を自社のミュージアムに活かして行ければと思います。
- ・今後、官民の協力を、又、それに関わる企業との情報交換の場を定期的につけて頂きたい。
- ・インバウンド(英語圏)の酒蔵ツーリズムに関わりたい。都内で利き酒を含むツアーをやっているが、お客様は酒蔵に行きたい興味はあるが、アクセスできない、言語対応ないなどの問題がある。もったいないと思う。
- ・酒蔵と連携したツーリズム形成を考えており、多くの酒蔵を持っているDMOで勤務しているため事例

集があると嬉しいです。

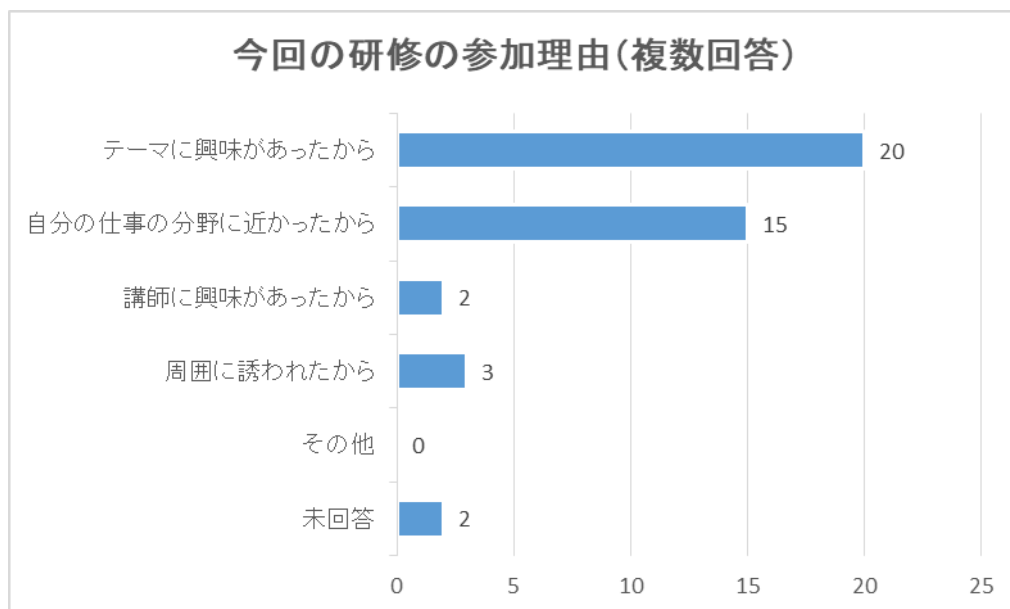
- ・東京にPR施設があると良いですね。酒と食の文化発信の。
- ・各自治体と観光協会に呼びかけて、全国組織づくりをさらに進めましょう。
- ・日本人、外国人共に需要があると考えます。たくさん事例紹介をお願いします。次回のセミナーは終了後、日本酒を飲めると更に良いです。
- ・コンセプトがあいまいなのでもう少し持っていきたい姿のイメージをクリアにしたいと思っています。議論が上滑りになりがちなので。

興味がある

- ・東京にある酒蔵は需要やアクセスの面で地方に比べればかなり恵まれていると思うのですが、それでもドタキャンなどで悩まれているというのは意外でした。フランスにいた方のアドバイスで事前支払いや高付加価値による高価格化の話がありましたが、そういったやり方のスタンダード化及び周知を協議会でやって頂きたいと思います。日帰りではなく、他の企画とセットで宿泊を伴ったものにできないかなと思います。
- ・日本のインバウンドに関わる業界には必要なものと感じています。弊社は都内のみで事業を行っていますが、それでも大変勉強になりました。
- ・外国の方は意外と居酒屋に行きたいとおっしゃる方が多い。私は日本酒が飲めないで、食べ物はともかく、お酒の紹介は難しい。お料理とおすすめのお酒の組み合わせを紹介してもらえると良い。

(7)「研修」に関するご意向

①今回の研修の参加理由



②「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」あるいは「日本観光振興協会」に対して、開催を希望する研修

- ・インバウンド客向け発酵食品工場見学ツアーや体験ツアー。
- ・他の地域のツーリズムの取り組み。
- ・現在はできていないが、海外輸出への動き方。
- ・継続は力なり。続けて欲しい。
- ・いつもありがとうございます。危機管理対応などもとっても学びの多いひとときでした！細野様のファシリテーターが素晴らしく、フロアの参加や発言が多く、また本格的でとても良かったです。
- ・地域の“コンテンツ”の発掘の仕方。持続可能な観光のために必要なこと(危機管理等)。
- ・このような研修を異業種との接続の場にして頂ければ幸いです。出来れば関東近郊の研修があれば、是非参加したいと思います。
- ・今回は酒蔵ツーリズムがテーマでしたが、他の日本文化(歴史)体験についてフィーチャーした企画も参加してみたいと感じました。
- ・日本観光振興協会の研修も行って欲しい。
- ・このようなイベントをもっと増やして欲しい。
- ・協議会には外国人から見た魅力を外国人の方からの話として聞きたい。協会には「若者のアウトバウンド促進」のテーマのセミナーを実施して欲しい。
- ・日本酒のみならず、酒・焼酎・ビール・ワインの包括的な日本のドリンクに関する研修。
- ・ガストロノミーツーリズムの事例紹介。ツーリズムの有料化に的を絞った蔵元向けセミナー等。

6. 総評(まとめ)

2回目の開催となる今回の研修には、観光関係者、酒造関係者、交通事業者、通訳案内士、一般の方など様々な属性の参加者に集まって頂いたため、パネルディスカッション後の質疑応答やアンケートの回答にて多角的な意見を把握することができた。特に、小澤酒造の具体的な取り組み事例の共有は、多くの参加者に満足頂けており、今後も個別の酒蔵の事例共有の場を設けていく必要性を明らかにできた。また、学芸員の方から講演をして頂いたことで、酒蔵ツーリズムに取り組むにあたっては、歴史・文化の視点から「ストーリーづくり」を行っていく重要性を伝えることができた点も大変有意義であったと考える。

アンケート結果からは、参加者によって求める情報が異なることが分かったため、今後の研修内容については、酒蔵向け・観光関係者向けなどの対象者を絞り込んだプログラムの設定や、初級・中級など取り組み状況に応じたレベル分けなどの必要性を見出すことができた。

次年度以降も、このような情報共有の場としての研修開催を継続・発展させていきたいと考える。

以上